

速報第2391号 H26.10.2発行 総務課 扱	道議会における質疑・質問及び答弁要旨	26年・三定 予算特別委員会 9月30日	質 問 者	笹田 浩 委員 民主党・道民連合 (渡島総合振興局)
質 疑 ・ 質 問		答 弁		担 当 課
<p>一 キャンパス校とセンター校の役割について 私は地域キャンパス校とセンター校の役割についてまずお伺いいたします。 熊石高校は、今年から募集停止となります。平成28年3月で、地域キャンパス校としては初めて、閉校することになっています。この熊石高校については、私はこれまで何度か質問させていただいておりますけれども、募集停止となった今年度、さらに閉校となる来年度に向けての対応について、これまでの道教委の取組など何点か伺ってまいります。</p> <p>(一) 教育環境などの維持について まず、教育環境などの維持についてお伺いします。今年度は9名の生徒が在籍し、来年の最終年では6名となる見込みであります。当然、生徒が在籍している間は、子どもたちが充実した学校生活を送れるように、寂しい思いをさせないように特に配慮が必要であるわけですが、募集停止に伴い、特に生徒や保護者、地域の関係者が心配してきた、学校行事や部活動の実施、あるいはセンター校である八雲高校との連携した取組などについて、今年度の状況はどのようになっているのか、また来年度についてどのように対応していくことになるのかお伺いをいたします。</p> <p>(意見) 残すところ、あと来年度限りでありますから、生徒が充実した学校生活を送れるように、よろしくお伺いいたします。</p> <p>(二) 募集停止後の進路動向について 次に募集停止後の進路動向についてお伺いいたしますが、地域キャンパス校における募集停止の第一号となる熊石高校でありますけれども、今年度からは、熊石地区に居住する生徒が、他の学校に通わざるを得なくなっているわけであり、今年度の3月に、この地区の中学校を卒業した生徒が、どこの地域の高校に通っているのか、通学困難などが理由で高校進学を断念した生徒がいないのか、また、通学費や下宿費の補助の状況はどうなっているのか、さらに、来年度以降も、こうした状況をきちんと把握していく必要があるというふうに思いますが、見解をお伺いいたします。</p> <p>(三) 通学手段などの確保について 答弁いただきましたが、地域キャンパス校とセンター校とのかかわりが、結果としてはあまり出ていないのではないかなと思っています。そこで、次に通学手段の確保などについてお伺いします。 道教委が行っている通学費等補助については、地域キャンパス校であっても、なくても、募集停止となった場合は、同様に取り扱われるものと承知しているわけであり、助成期間も全く同じように扱われていると承知しております。</p>	<p>(参事(改革推進)) 教育環境の維持充実についてでございますが、熊石高校では、学校祭や体育祭などの学校行事で、地元商工会等と連携して、模擬店の出店や「スコープ三味線」の演奏などを行うとともに、バスケットボールやバレーボール、吹奏楽の部活動で、八雲高校や森高校、長万部高校などと合同チームで大会に参加し、吹奏楽部においては地区大会で金賞を獲得するなど、地域や他校と連携し、生徒の元気あふれる意欲的な教育活動を展開しております。 また、センター校の八雲高校と連携して、芸術、家庭、商業の科目で出張授業や遠隔システムを使った授業を行うとともに、進路ガイダンスや資格取得に向けた講習会、芸術鑑賞などを合同で実施するなど、専門性の高い授業や多くの生徒との交流、多彩な体験活動に取り組んでおります。 道教委といたしましては、来年度もこうした取組を継続させ、熊石高校の生徒が充実した学校生活を送ることができるよう、教育環境の維持充実に努めてまいります。</p> <p>(参事(高校配置)) 生徒の進路動向についてでございますが、熊石地区には中学校が2校あり、今年3月に両校を卒業した生徒18名は、全て高校又は高等専門学校に進学しており、進学先を申し上げますと、 ・渡島管内には、八雲高校に進学した1名を含め公立高校に4名、私立高校に4名、高等専門学校に2名 ・檜山管内の公立高校に6名 ・石狩管内の私立高校に1名 ・通信制の有朋高校に1名 となっております。 また、通学費等の補助の対象となる、渡島・檜山管内の高校に進学した14名のうち、補助申請があり、所得制限などの要件を満たす者は5名で、平均しますと、 ・通学費は3名に、一人当たり年額242,000円 ・下宿費は2名に、一人当たり年額215,000円 を補助することとしております。 今後とも、熊石地区の生徒の進路動向を把握・分析しますとともに、通学費等補助制度を活用していただけるよう、地域別検討協議会や学校説明会などの機会をとおして、周知に努めてまいります。</p> <p>(参事(高校配置)) 通学対策についてでございますが、道教委では、熊石高校の募集停止に当たり、生徒や保護者が、通学費等補助制度を理解した上で、学校選択ができるよう、昨年12月に、熊石地区の中学生の保護者や進路指導担当教員などを対象に、説明会を開催いたしました。 説明会では、募集停止に伴い熊石地区と同様の影響を受ける、せたな町の一部地域についても、補助対象とすべきとご意見があったことから、この地域の生徒が八雲高校に進学する場合についても補助対象と</p>	<p>新しい高校づくり推進室</p> <p>新しい高校づくり推進室</p> <p>新しい高校づくり推進室</p>		

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>しかしながら、地域キャンパス校については、地理的な状況から他の地域への通学が困難なことなどを理由に指定された学校であるという経緯を踏まえ、募集停止に当たって、道教委がもっと責任を持って、通学手段の確保などに努力をすべきだというふうを考えます。そもそも通学が困難だということで地域キャンパス校にしたのですから、通学手段という部分を強調したいと思うのですが、地域の声を十分に聞いて、とりわけセンター校である八雲高校への進学が可能になるような対策を講ずるべきと考えますが、これまでどのように対応してきたのか伺います。</p> <p>(指摘) 今まで、何度かこの問題を取り上げてきたわけですが、道教委からは、通学という視点も含めて答弁があったわけですが、今回は、通学という部分ではなくて下宿というふうにシフトしたと思いますので、通学という視点もあきらめることなく続けていただきますよう、指摘させていただきます。</p> <p>(四) 国への要請について 次に国への要請等についてでありますけれども、今年の第2回定例会の一般質問において、私からは、「小規模校に対する支援の充実について、国に対して要請すべき」と質問をさせていただきました。それに対し、「地域の要望も踏まえ、将来の地域社会を担う人材の育成や、特色ある教育活動の観点から、本道の地域性に配慮した財政措置の一層の充実が図られるよう、国に対して強く働きかける」との答弁をされましたが、その後、具体的にどのように対応しているのか伺います。</p> <p>(四) 一 再 国への要請について ただ今、答弁いただきましたが、熊石高校の募集停止後の対応について、通学手段の確保について国に対する要望のみという答弁でありました。設置者であり、募集停止を決定したのは道教委でありますから、十分とはいえないのではないかなと思います。そこで、町にまかせるだけ、国にお願いするだけというのではなく、道教委がもっと積極的に責任をもって対応する必要があるのではないかと考えますが、再度このことについて伺います。</p> <p>二 道立学校施設の安全対策について</p> <p>(一) 吊り天井などの落下防止対策について 次に道立学校施設の安全対策について伺います。まずは、吊り天井などの落下防止対策について伺いますが、学校施設の耐震化に関して、文部科学省が公表した平成26年4月1日現在の調査結果によると、致命的な事故が起こりやすい屋内運動場等の吊り天井やバスケットゴールなどの落下防止対策については、例えば、道立高校の吊り天井を有する棟の区分で言えば、総点検実施率37.5%、対策実施率0%であるなど、道立学校における対応は総じて不十分な状況にあるというふうに思いますが、この総点検や対策実施に対する取組状況についてお伺い致します。</p>	<p>いたしました。</p> <p>また、これらの地域から八雲高校への進学を希望する生徒に対しては、八雲町と連携しながら、下宿先を確保してきており、今後とも、こうした取組をとおして、生徒の修学機会が損なわれないよう努めてまいります。</p> <p>(参事(高校配置)) 国への要望についてでございますが、道教委では、これまでも、高校の配置にかかわりまして、広域な本道の地域性も勘案し、 ・小規模校における教育環境の充実のための定数措置の拡充や ・通学費等に係る保護者の経済的な負担を軽減するための財源措置の新設 などにつきまして、国へ要望してまいりました。 こうした要望に加えて、本年7月には、新たに、都市部と郡部の違いや、これまでいただいたご意見を踏まえ、市町村が実施する通学費等の補助やスクールバスの運行に係る経費に対する財源措置について要望をいたしました。 今後とも、地域の実情を踏まえながら、本道の地域性に配慮した財政措置の一層の充実が図られますよう、引き続き、国に対し強く働きかけてまいります。</p> <p>(新しい高校づくり推進室長) 通学対策などについてであります。高校の募集停止に当たりましては、これまでも、生徒の修学機会を確保できるよう、地域の実情に応じて公共交通機関の事業者に対し、運行時間の見直しなどについて要請しますとともに、沿線の関係市町村とも協議を行ってきております。 このたびの熊石高校につきましては、こうした取組に加えて、担当参事が申し上げましたとおり、地域からのご意見を踏まえ、通学費等補助制度の対象地域を拡大したほか、進学する生徒の下宿先を確保するなどしてまいりました。 今後とも、道教委が主体となって、関係市町村と連携しながら、地域別検討協議会や学校説明会など様々な機会をとおして、保護者や地域の方々のご意見を伺い、生徒の修学機会の確保に努めてまいります。</p>	<p>新しい高校づくり推進室</p> <p>新しい高校づくり推進室</p>
<p>(施設課長) 吊り天井などの落下防止対策についてでございますが、道教委といたしましては、児童生徒等の安全を確保するため、道立学校における屋内運動場等の吊り天井やバスケットゴールなどの落下防止対策に早急に取り組む必要があると考えております。 このため、落下時に大きな被害が想定されます屋内運動場等の吊り天井につきましては、既に総点検を完了し、本年度内に、保有校すべての改修工事を実施することとしております。 また、屋内運動場等のバスケットゴールと照明器具につきましては、本年度中に総点検を終え、本年度と平成27年度の2か年で対策が必要なすべての学校で補強工事を実施して参りたいと考えております。</p>		<p>施設課</p>

質 疑 ・ 質 問	答 弁	担 当 課
<p>(意見) 致命的な事故が起こってからでは遅いわけであり ます。ただ、この対応はですね、非常に早いと。本 年度中に総点検を終えて、本年度来年度でやるとい うことですから、評価致します。次の質問にもここ はかかってきますので、この点については大変評価 するという事です。</p> <p>(二) 野球グラウンドの安全対策について 道立高校の野球グラウンドには、バックネットや フェンスなどが整備されていると思います。部活動 などでファウルボールがグラウンドの外に出ること もあるのではないかと思います。特に硬球の場合は、 人身事故など重大な事故に繋がりがかねないという ふうに思います。学校からはフェンス嵩上げなどの改 修要望も出されているとふうに思いますけれども、 過去3年間でどのくらいの要望があったのか、また、 これに対してどう対応していくのかお伺い致しま す。</p> <p>(指摘) 人身事故など重大な事故につながりがかねないわけ ですから、今訴訟社会の現状でありますので、これ については早急な対応を取るよう指摘をさせていた だきたいというふうに思います。</p>	<p>(施設課長) 道立高校の野球グラウンドについてでございます が、野球グラウンドには、生徒や学校周辺地域等への 安全対策として、バックネットや両翼にフェンスを設 置しておりますが、部活動などでファウルボールがフ ェンスを越えることもあり、こうしたことが多い学校 からは、フェンスの嵩上げや水平防球ネットの設置の 要望があるところでございます。 平成23年度から25年度までの3年間における要望に ついては、26校から出されており、学校の実情や緊急 性、危険度合いなどを勘案しながら、本年度実施分を 含め14校については、学校要望に即した改修工事を実 施したところでございます。 残り12校については、大変厳しい財政状況にありま すが、来年度以降、順次、整備できるよう努めて参り たいと考えております。</p>	<p>施 設 課</p>
<p>(三) 八雲高校の木造校舎の整備について 私の地元の八雲高校はですね、鉄筋コンクリート や鉄骨造の校舎と併せて木造の校舎が混在をしてい ます。この木造校舎の老朽化が著しいということで、 私も平成25年の第一回定例道議会で、木造校舎の整 備について伺ったところでございます。、当時の教 育長から「来年度、専門家による調査を実施し、改 修等について具体的に検討する」との答弁をいただ きました。その調査結果はどうであったのか、また、 今後どう取り組んでいくのかお伺い致します。</p> <p>(意見) 同じように、三つの項目について危険な状況をち よっと質問させてもらいましたけれども、この八雲 高校については、平成25年度に調査をして、危険だ と構造上危険な状態にある建物だと判断をしたと。 その結果、今年度はですね整備方法などについて鋭 意検討をしているところであります。で、早期に 方針を決定する考え。なんかですね、この危険な状 況にある建物と判定した校舎で、今日も学んでいる 生徒がいるというわけでありますから、そのまま何 年も手をつけない、なんていうことは、今までの状 況からしてもありえない、というふうに私は思っ ています。 今後、早期に方針を決定して参る考えとのことで ありますから、この今後というものは来年度、平成27 年度と考えさせていただきますので、予算の確保に 全力で取り組んでいただけますよう、お願いを申し 上げまして私の質問を終わります。</p>	<p>(教育次長) 八雲高校の木造校舎についてでございますが、八雲 高校の校舎の主たる構造は鉄筋コンクリート造でござ いいますが、特別教室棟や職業教育実習棟は木造であり、 建築後、相当年数が経過し、この間、外壁改修などを 実施してきたものの、老朽化が進んでおります。 このため、道教委では、平成25年度に、この木造校 舎の危険な状態の度合いを測定する耐力度調査を実施 し、その結果、構造上危険な状態にある建物という ふうに判定されたところでございます。 道教委といたしましては、この調査結果を踏まえま して、適切な教育環境を確保する観点に立って、整備 方法などについて鋭意検討しているところであり、今 後、早期に方針を決定して参る考えでございます。</p>	<p>施 設 課</p>